

選挙の形が変化してきた。特にネット動画、SNS(交流サイト)など、政策を伝える手法が変わった。その結果、多様な情報を得られて適切に候補者を選択できるはずだった。

しかし、いざ選ぶとなると「どう投票すべきか分からない」と感じないだろうか。私自身も悩み疲れ、選択を棚に上げて「誰が当選しそうか」と思案し始める。

なぜ情報が十分あるのに、すんなりと選べないのだろう。20日投票の参院選を機に考えてみた。

公報やメディアには多数の候補者、政党、公約が並ぶ。その状況は民主主義としてはとても喜ばしい。また、情報は常に出し手と受け手の間で偏り、「非対称性」がある。SNSなどが政策情報や人柄をかみ砕いて伝えてくれることは望ましい。ただ、想定より選択肢や情報が多いと戸惑いが生じ、考えを放棄したくなる。反対に、候補者が少ない場合や政策に微妙

座標

な違いしかない場合は、十分な情報を得られず決め手を失う。

投票先をどう選ぶのか、若者に話を聞いた。質問に答えていくと、政策や主張が自分の考え方に近い「お薦めの政党や候補者」を示してくれるサイトを見ることがあるという。なるほど便利そうだ。

ツールに頼るときも自分で選ぶときも、選択時にはバイアスという、意思決定時のゆがみに直面することは念頭に置いておきたい。

私たちは簡単にSNSの情報、友人の行動、直前の出来事、最初の印象に引きずられる。特に肯定的な事柄よりも否定的、悲観的な

情報比較 知るを楽しむ

事柄に強く影響を受ける。フェイク情報はつけ込むように感情を揺り動かすのを流し、選択をゆがませようとする。自分で決めたようでいて誘導されることも多い。いざ投票しようとしても「投票で失敗したくない」と感じ、自分にとつての一番ではなく、当選しそうな人を選ぶことも起きる。なんとも選択は難しいものだ。

ただ、自分で選択、決定すれば幸福感が高くなるとされる。私たちが住む場所、国の未来は、悩み抜いても自分で決めるのが良い。では、どうするべきか。第一に適切な知識を得て、第二に新聞を含む他の情報と常に比較検証することだ。学びは論理的な分析能力の習得に適している。

そしてもう一つ。過程を楽しみと自分らしく選択できるという。例えば、選挙では多様な考え方が示されるため、「知る」を楽しむ機会と捉えるのだ。政党や候補者の経済政策を見比べるだけでも、



野呂 拓生

(仙台市)

東北福祉大共生まちづくり学部教授

考え方、表現方法が違ふことが分かり非常に興味深い。

もちろん、選んだ人が良い仕事をしてくれば、私たちの選択は報われ、幸福を感じるはずだ。良い選挙、良い政治を期待したい。

のろ・たかおさん 1974年青森



県五所川原市生まれ。東北大学大学院経済学研究科後期課程修了。博士(経済学)。東北活性化研究センター主任研究員、青森公立大准教授を経て、2019年東北福祉大准教授。25年4月から同大共生まちづくり学部教授。共生まちづくり学科長も務める。専攻は地域経済、金融、イノベーション。

変わる選挙の形